

2021年3月果実概況

北・東・西日本は記録的気温高。太平洋側では降水量が多く、西日本日本海側は多照だった。

3月の天候は平年並みに晴天に恵まれ、気温高で推移した。東京の桜の開花は3月14日と過去最速、各地の開花も早かった。1月から続いた緊急事態宣言もようやく3月21日に解除されたが、販売環境に依然変化は見られない。

果実全体の入荷量は前年比106%、価格509円(前年比99%)。生育順調から長崎産「ハウスびわ」・宮崎産「マンゴー」の出荷が始まり、品質維持のためのりんご・晩柑類の前進出荷が進む。価格はほぼ前年並みの結果となった。

みかん類は入荷176%、価格398円(94%)。みかん類総体で販売は概ね好調。静岡産青島みかんは不作だった前年に比べ5割増、「寿太郎みかん」の入荷も多い。徳島・香川産の出荷も多く、価格は前年比若干安。

かんきつ類は入荷96%、価格338円(105%)。愛媛産伊予柑は「弥生紅」の販売に入るが、1月の寒波の影響により数量減。「不知火」は露地物の販売に入り、入荷量は終盤の品質不良を回避すべく、出荷前進気味で進んだ。

りんご類は入荷124%、価格260円(74%)。貯蔵品のみのお回りで、体質が弱いため下等級中心の出荷が続く。不作だった前年に比べ数量は潤沢にあったが、単価は安く推移した。

いちご類は入荷100%、価格1,371円(108%)。3月に各地各品種とも生育にバラつきあるが3番果に入り、中下旬からピークを迎えた。お回りは前年並みだが、小玉傾向で進む。業務需要は弱いものの、価格は前年比若干高。

メロン類は入荷91%、価格1,296円(135%)。2月の低温、天候不順を受け、品質は若干落ちるも、コロナ禍の影響を受け販売苦戦となった前年に比べ本年は回復基調にあり、単価高となる。

すいか類は入荷117%、価格411円(101%)。大玉・小玉ともに生育順調で出荷は前進傾向となる。量販店の取扱いも早く、小玉の引合いも強まる。大玉は生育前進から肥大は弱いものの、相場はほぼ前年並みの展開となった。

その他施設栽培物では、長崎産「ハウスびわ」は2月6日より始まり、入荷量は前年を大幅に上回る。宮崎産「ハウスマンゴー」は遅かった前年同時期に初荷を迎えたが、開花が早く生育前進傾向にあり、前年の6割強入荷増となった。